

(別記様式)

令和5年度 京都府立中丹支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階・実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>学校教育目標 ～いどむ つながる かがやく～ ・主体的に学ぶことも含め、未来に向かって挑戦してほしい ・いろいろな人とともに歩んでほしい ・幸福な生き方をつくりだすことで自分らしい輝きを増してほしい</p> <p>このような児童生徒を育てるために、小・中・高の系統性を持たせた指導にあたる。 小学部では基礎となる力を身に付ける「基礎・意欲」を大切に、 中学部では身に付けた力を広げる、深める「発展・可能性」の段階へ 高等部では自立や社会参加に必要な力へと高める「統合・個性」へと発展させていく。</p>	<p>○児童生徒一人一人の小さな体調変化も見逃すことなく、対応することで、新型コロナウイルス感染症を大きく広げることなく、学校運営を行うことができた。 ○危機管理意識の面では、ヒヤリハット事象が何件もあり、さらなる意識の向上が必要である。</p> <p>学校経営 1 働き方改革推進会議が中心となり、様々な分掌と連携しながら施策(育児(自)の日を月2回、回議書の整理、会議の精選)を実施し、超過勤務は減少した。今後は「働きがいのある職場」にしていくことが求められる。 2 学校運営協議会で委員より様々な意見をいただき、地域とともに歩むためのヒントを得ることができた。</p> <p>教育活動 1 研究部を中心に研究活動を進め、他学部の実践も聞くことで12年間の系統性ある教育課程の検討ができた。今後、具現化していかなければならない。 2 コロナ禍の中、制約もあったが高等部においては職場体験、実習の機会を多く設けることができ、生徒の進路選択に役立った。中学部においても地域学習を実施することができた。 3 学校生活の様々な場面で、タブレット端末を使った実践を行うことができた。</p>	<p>学校経営 1 引き続き働き方改革に取り組む。 アンケート等を実施することにより、教職員の多忙観、負担感を把握した上で、より働きがいのある職場を創っていく 超過勤務1ヶ月45時間以内100%を目指す。 2 学校運営協議会との連携 学校運営協議会と連携し、将来地域で生きていくために何ができるか、具体的な方策を検討、実施する。 3 ウィズコロナ時代の学校経営 コロナ前に戻すのではなく、取組を取捨選択し、残すもの、方法を変えるもの等を検討する。 4 学校からの発信 学校の取組をメディアに発信することにより、本校の児童生徒のことをより多くの人に知ってもらう。</p> <p>教育活動 1 12年間を見通した教育課程の編成 高等部卒業後を見通した指導を小学部段階から進めていく。 2 障害特性に応じた専門的な指導 肢体不自由、自閉症スペクトラム等の障害特性に応じた指導ができる教員を育成する。 3 ICT機器の更なる活用 学校生活全般をとおして、ICT機器を活用することで、児童生徒の情報活用能力を向上させていく。 4 地域と連携した教育 地域の関係機関との連携を図り、体験的な学習や職場体験・実習等の機会拡大を図り、児童生徒の力を伸ばす。</p>